

狂言の稽古 開始です (NO.4)

『柿山伏』の稽古



修業を積んだ山伏が、柿を食うとるのです。

山伏は、自信満々の人で、山で修業を積んで、灵力満ち満ちた怖いもの知らずの人です。威厳をもって、ゆっくりと話しましょう。



山伏が柿を食べる速さは、ゆっくりと！早く食べると、どれだけ食べるのかというぐらいの量を食べないといけなくなります。



畑主は、山伏に呼びかけます。「やいやいやーい。そこな奴」は、腹を立てている畑主を表現します。

山伏と畑主の息を合わします。畑主が畑に着いたら、山伏は（渋柿を食べて）「ペッ」と手を振り落とします。そのタイミングで、畑主は、「あいた〜」と叫びます。**畑主のセリフが残っていても、山伏の手をおろしたのが優先です。**

笑いをセリフに残します。「思うそうな」の「う」は「お」で発音します。昔の発音で言います。**腹から声をしっかり出しましょう。**
 畑主は、木のでっぺんにいる山伏に呼びかけます。**呼びかけの語尾は下げない。語尾を上げましょう。**



鳥の鳴きまね、猿の鳴きまね・・・山伏が、（えっ！ぼくが猿なん?）という表情をします。
 キャーツ、キャツ、キャツ、キャツ、キャツ・・・は、恥ずかしがらずに演技します。
 観てくれている人が笑うところを、演ずる人が笑わないようにします。
畑主の呼びかけのテクニックは、語尾を上げることです。



山伏は、ゆっくり話します。**畑主は、呼びかけと独り言の区別をしながら、話します。呼びかけは語尾を上げ、独り言は語尾を下げます。セリフで木の高さを表現します。「たかーい」のセリフで。**



この場面は、山伏の威厳がないところからのスタートで、さんざん柿を食べた山伏です。**山伏の威厳を復活させてほしいところです。**腰の骨を打っているけれど、自信満々の山伏の様子を表現しましょう。山伏のセリフの「看病をせい」のところ。

畑主の方が、主導権をもちます。リズム感をつくるのは、畑主の役割です。
「ハーッ、ハッ、ハッ、ハッ、ハッ」は、しっかり笑います。話すときは、ゆっくりと話します。



山伏の「目にものを見せてやろう」は、**威厳をもって言いましょう。**言葉を遠くまで飛ばすように話しましょう。



《全体を通して》

- ・全体的にセリフが早口になっています。早口になると、観客は聞き取れないので、**ゆっくりと話そうにしましょう。**
- ・発表会は、屋外で行います。風の音・木々の揺れる音の中で、自分のセリフを観客に届かすことになります。**声を届けてください。**
- ・映像と舞台の違いは、舞台は、遠くまで自分の言葉が届かないと意味がないところです。
- ・**声を遠くまで届けるには、姿勢が大事です。背筋を伸ばして、おなかに力を入れて発声しましょう。**

- 【姿勢が大事！】…背筋を伸ばすこと
- ・お辞儀は、お腹から、手をついて曲げます。背中には曲げません。手は、手を合わせて、三角形の中に鼻の位置がきます。お腹に力を入れます。
 - ・日本の考え方で、一番大事なのは『腹』です。